

**iPS 細胞の開発・製造のリーディングカンパニー 米国 Cellular Dynamics International, Inc.の買収合意
再生医療分野における事業を拡大**

2015年3月30日

富士フイルムホールディングス株式会社(社長:中嶋 成博、以下 富士フイルム)は、本日、iPS 細胞の開発・製造のリーディングカンパニーである Cellular Dynamics International, Inc.(CEO:Robert Palay、本社:米国ウイスコンシン州マディソン、米国NASDAQ 上場、証券コード ICEL、以下 CDI 社)と、当社が株式公開買付けにより、CDI 社を買収することについて合意しました。富士フイルムは、米国子会社を通じた本公開買付けにより、CDI 社の発行済普通株式の総数を総額(完全希薄化ベース^{※1})約307百万米ドル(1株当たり16.5米ドル)で取得します。

本買収後、CDI 社は、当社の連結子会社として、米国ウイスコンシン州マディソン及びカリフォルニア州ノバトにおいて事業を継続することを予定しています。本買収は友好的なものであり、両社の取締役会において全会一致で承認されました。なお、本買収完了のためには、競争法上要求される手続きの完了を含む一定の条件を満たす必要があります。

今回買収する CDI 社は、2004年に設立され、2013年7月にNASDAQに上場したバイオベンチャー企業です。CDI 社は、良質な iPS 細胞を大量に安定生産する技術に強みを持っており、大手製薬企業や先端研究機関など多くのユーザーとの供給契約、開発受託契約を締結しています。現在、創薬支援や細胞治療、幹細胞バンク向けの iPS 細胞の開発・製造を行っており、既に創薬支援向けでは、心筋や神経、肝臓など12種類の高品質な iPS 細胞を安定的に提供しています。

また CDI 社は、California Institute for Regenerative Medicine (CIRM)^{※2}との iPS 疾患細胞バンクの樹立、免疫拒絶を起こしにくい HLA^{※3}タイプを持ったドナーから作る cGMP^{※4} 準拠 iPS 細胞バンクの樹立、National Eye Institute (NEI)^{※5}へのドライ型加齢黄斑変性症^{※6}の臨床試験開始届を行うための前臨床試験用 iPS 細胞受託を進めるなど、米国での iPS 細胞供給ビジネスを積極的に展開しています。

富士フイルムは、これまで写真フィルムの研究開発・製造などで培ってきた技術やノウハウを活用して、再生医療^{※7}に必要な細胞増殖のための「足場」^{※8}として、生体適合性に優れ、さまざまな形状に加工できるリコンビナントペプチド(RCP)^{※9}を開発しています。また昨年12月には、日本で再生医療製品を上市している株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(J-TEC)を連結子会社化するなど、再生医療分野への取り組みを強化してきました。今回、CDI 社買収を通じ、iPS 細胞を使った創薬支援分野に参入します。さらに、CDI 社の iPS 細胞関連技術・ノウハウと富士フイルムの高機能素材技術・エンジニアリング技術や J-TEC の品質マネジメントシステムとのシナジーを発揮させ、再生医療製品の開発加速、再生医療の事業領域の拡大を図るとともに、再生医療の産業化に貢献していくことを目指します。

※1 オプション及びワラントがすべて行使されたときを前提として換算した場合。

※2 CIRM(California Institute for Regenerative Medicine)は、2004年に設立された慢性疾患・慢性傷害の診断・治療を目的とした幹細胞と再生医療のカリフォルニアの研究機関。

※3 HLA(Human Leukocyte Antigen=ヒト白血球抗原)は、ほぼすべての細胞と体液に分布していて、組織適合性抗原(ヒトの免疫に関わる重要な分子)として働いている。造血幹細胞移植や臓器移植では、自分の HLA のタイプに合わないものはすべて異物と認識して攻撃を始めてしまうため、免疫拒絶反応を抑制する必要から HLA の適合性が重要視される。

※4 GMP(Good Manufacturing Practice)とは、「医薬品の製造管理および品質管理に関する基準」のことで、おおもとは WHO によって作成され、各国の事情に合わせて修正されたものが使われる。このうち、アメリカの FDA が定めたものを cGMP(current Good Manufacturing Practice)と呼ぶ。

※5 NEI は、米国の保健福祉省公衆衛生局の医学研究拠点機関 NIH(National Institutes of Health)に所属し眼疾患治療の研究/支援をする機関。

※6 加齢黄斑変性症は、加齢に伴って目の奥にあり光を感じる網膜の中心部分である黄斑部が変性を起こす疾患で、進行すると失明に至る。網膜の下からもろい血管が伸びて起こる「ウエット型」と、それ以外の「ドライ型」がある。患者は世界で約3千万人と推定され、既存の治療法として、「ウエット型」に対しては、光線力学療法、光凝固療法、抗 VEGF 薬などがあるが完治には至らず、「ドライ型」に対しては有効な治療方法が確立されていない。日本では「ウエット型」が、米国では「ドライ型」が全体の9割を占めると言われている。

※7 再生医療は、人工的に培養した細胞や組織などを用いて損傷した臓器や組織を再生し、患部の機能を回復させる医療技術。再生医療は、①分化・増殖して人の組織となる「細胞」、②細胞の分化・増殖を誘導する増殖因子等の「サイトカイン」、③細胞が正常に生育・増殖するために必要な「足場」が重要な三要素である。

※8 細胞が接着し正常に増殖するために必要な場を提供する細胞外物質(細胞外マトリックス、スキャフォールドとも言う)。

※9 ヒト I 型コラーゲンをモデルとし、遺伝子工学技術を用いて酵母細胞に産生させた人工タンパク質。

記

1. 本買収の概要

(1) 本公開買付け実施者

当社米国子会社の下に設立された買収目的子会社(SPC)

本買収のため、当社は、当社米国子会社(FUJIFILM Holdings America Corporation)の完全子会社として SPC を米国ウィスコンシン州に設立しました。本公開買付け終了後、必要に応じてトップ・アップ・オプション^{※10}を行使した後、SPC は CDI 社にウィスコンシン州法に基づく略式合併によって吸収合併され、CDI 社は当社の連結子会社となります。

※10 本公開買付けにより取得した CDI 社株式とあわせ、CDI 社発行済普通株式数の 90%超の数(完全希薄化ベース)に達するまでの新株を、CDI 社より直接取得すること。これにより、ウィスコンシン州法に基づく略式合併を行い、株主総会決議を経ることなく、本買収を完了する予定。

(2) 本公開買付けの対象会社

Cellular Dynamics International, Inc.

(3) 買付けを行う株券等の種類

普通株式

(4) 買付け価格

1 株当たり 16.5 米ドル

(5) 買付けに要する資金

約 307 百万米ドル(予定)

CDI 社の発行済株式総数を買付け、オプション、ワラント等その他証券に関する支払いを行うために要する金額を記載しています。当社は、本買収を完了するための十分な手元資金を保有しており、資金調達は本買収が成立するための条件とはなっておりません。

(6) 買付け期間

買付け期間は CDI 社との合意の日(米国時間 2015 年 3 月 30 日)の翌日から 5 営業日(土曜日、日曜日及び米国における祝祭日は含まれない)以内に開始され、開始後 20 営業日(土曜日、日曜日及び米国における祝祭日は含まれない)で終了します。なお、合意内容に基づき、買付け条件が充足されない場合は、買付け期間の延長を実施する可能性があります。

(7) 下限応募株式数

SPC は、本買収に係る CDI 社との契約に定める下限株式数以上の応募があった場合に買付けを行います。

(8) 本公開買付け及びトップ・アップ・オプションの行使(必要な場合)による CDI 社株式の保有割合の異動

本公開買付け前の保有割合 0%

本公開買付け及びトップ・アップ・オプションの行使(必要な場合)並びにウィスコンシン州法に基づく略式合併後の保有割合 100%

2. CDI社の概要

(1) 会社名	Cellular Dynamics International, Inc. (セルラー・ダイナミクス・インターナショナル)
(2) 設立	2004年
(3) 所在地	米国 ウィスコンシン州マディソン
(4) Chairman and CEO	Robert Palay
(5) 売上	16.7百万米ドル(2014年度)
(6) 従業員数	155名(2014年12月31日時点)
(7) 主な拠点	ウィスコンシン州マディソン、カリフォルニア州ノバト

3. 富士フィルムの業績への影響

本買収が当社の2016年3月期の連結業績に与える影響については、詳細が確定次第、改めてお知らせいたします。

4. 将来見通しに関する注意事項

本プレスリリースは、当社及びCDI社の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社またはCDI社が現在入手している情報に基づく判断及び仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社及びCDI社の実際の業績又は展開と大きく異なる可能性があります。これらの将来に関する記述は、「考えます」、「期待します」、「見込みます」、「計画します」、「意図します」、「はずです」、「するつもりです」、「予測します」、「将来」、その他、これらと同様の表現、又は特に「戦略」、「目標」、「計画」、「意図」などに関する説明という形で示されています。多くの要因によって、本文書に述べられている「将来に関する記述」と大きく異なる実際の結果が、将来発生する可能性があります。かかる要因としては、(i)両社が本買収の条件に関し一部あるいは完全に合意できないこと、(ii)本買収に必要な承認が得られないこと、(iii)本買収の完了に必要とされる規制上の条件又は他の条件が充足されないリスク、(iv)本買収の当事者に関連する法制度、会計基準等又はその他の経営環境の変化が及ぼす影響、(v)事業戦略を実行する上での課題、(vi)金融の不安定性及び他の一般的経済状況又は業界状況の変化が及ぼす影響、及び(vii)本買収の完了に関するその他のリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

5. 追加情報

本プレスリリースに記載されている本公開買付けはまだ開始されていません。本プレスリリースは情報を提供するためのものであり、CDI社の普通株式の買付けの応募、又は売付けの募集を勧誘するものではありません。公開買付けは、富士フィルムが米国証券取引委員会(以下「SEC」)に届け出るSchedule TOIによる本公開買付け説明書(買収提案、送達状、その他の関連公開買付け文書を含む。)に基づいて実施されます。随時修正される可能性のあるこれらの資料には、買付けの条件などの重要な情報が含まれることから、入手可能となった際には、公開買付けに関する決定をされる前に熟読されるようお願いいたします。投資家および株主は、富士フィルムが届け出るこれらの資料(入手可能となった以降)およびその他の文書を、SECのウェブサイト<http://www.sec.gov>または富士フィルムのウェブサイト<http://www.fujifilmholdings.com/en/investors/index.html>から無料で入手することができます。

本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

<報道関係>	富士フィルムホールディングス株式会社 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 TEL 03-6271-2000
<その他お問合せ>	富士フィルム株式会社 再生医療事業推進室 TEL 03-6271-3030